

宝のつまった町 幸崎

幸崎小学校では、総合的な学習の時間に自分達が住む幸崎の産業・歴史・文化等について学習しています。六年生になると今までの学習の中でさらにくわしく調べたいことについて、地域の方にお話を聞いたり、地域に出て調べたりします。今年も地域の方に来ていただき、清水南山先生や幸崎能地春祭り等について教えていただきました。

清水南山先生は、幸崎出身の彫金家で幸崎小学校の校章を作られた方でもあります。地域にある南山資料館には、一ミリよりも細かい一本一本の線で彫られた唐獅子や、毛の一本一本までいていねいに、まるで生きているように描かれた虎の絵が置いてありました。私はこんなに細かい線で作品を仕上げるのには、どれだけ長い時間がかかったことだろうと思いました。また、清水南山先生は、けがのため足が不自由だったにもかかわらず、「豊田高等小学校」に行くために、約8kmの山道を毎日歩いて通っておられたとも聞きました。清水南山先生は、毎日往復で十何kmもよく歩いて通われたなと思いました。何事もあきらめない粘り強い人なのだと思います。

一方、能地春祭りは、だんじり同士をぶつけ合い、けんかをする祭りで、広島県の無形民俗文化財になっています。だんじりは船を表し、けんかは嵐を表しているそうです。だんじりには四本柱というものがあり、その柱は東西南北を表していてそれにも意味があり、東は青龍、西は白虎、南は朱雀、北は玄武という四方を守る神だと聞きました。私は、だんじりの一つ一つの部品に意味が込められていることを初めて知り、昔の人みんなの幸せな暮らしを願っていたんだなと思いました。

地域の方のお話を聞くことで、私達の住んでいる幸崎には、たくさんの伝統や文化が受け継がれていることがわかりました。私達はその伝統・文化を受け継ぎ、私達のふるさと、宝のつまった町幸崎のすばらしさを多くの人に伝えられるようがんばっていききたいと思います。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します

— 連載第38回 —

もっと素敵な本郷の町にするために

「おはよう。きょうもがんばれよ。」

本郷の町は地域の方々の元気なあいさつで一日が始まります。私は、いつも明るい笑顔で返してくれる地域の方々がいるので、本郷の町が大好きです。わが町本郷が、子供からお年寄りまでみんなが住みやすい、笑顔があふれる町になるといいなと思っています。

そんな私の大好きだった町は、昨年の西日本豪雨災害により、信じられない姿になってしまいました。町の道路は土砂がおおいかぶさり、ひどい所は歩くのがやっとのことでした。けれども、その土砂は、日に日になくなっていききました。町の人たちが大人も子どもも関係なく協力し合い、土を一生懸命とりのぞいていました。電気も水もない中で、私たちは一生懸命元の町の姿を取りもどそうとしました。

毎年行われる本郷夏祭りも中止になり、今まで当たり前のように見てきた元気を与えてくれる花火も見られませんでした。毎年続いていた本郷の伝統行事がとぎれてしまうのは、とても残念なことでした。しかし、今年の夏祭りは行われると聞き、心がワクワクしています。

私は、今年の夏祭りに六年生として伝統である甲冑行列と隆景音頭をおどります。そのために、今、私たちは甲冑づくりに取り組んでいます。町の人たちに少しでも笑顔と元気を届けられるようにがんばります。当日の祭りでは、町の人たちといっしょに楽しく隆景音頭をおどりたいと思います。そして、たくさんの方が笑顔になるといいです。

私はこれからも本郷の町をもっとと素敵な町にするために、地域の人と関わりながら地域行事に進んで参加して笑顔を広げていきたいと思っています。

